

4mm目合い防虫ネットによるリンドウの花傷み抑制技術

福島県農業総合センター 作物園芸部花き科

1 部門名

花き - リンドウ - 病害虫防除

2 担当者

矢島 豊・鈴木安和・山口繁雄

3 要旨

初夏から盛夏は、訪花昆虫の活動が活発になるため、盗蜜行動やこれに伴う受粉により花の劣化が早まることが問題となる。そこで、目の粗い防虫ネットの被覆による花傷みの低減効果を明らかにした。

- (1) 防虫ネットでリンドウ株を被覆することにより、訪花昆虫の活動が制限されるため、採花時における花の劣化は被覆しない場合の10%前後に抑制できる(表1)。
- (2) ネットの目合いは4mmとし、開花直前から採花終了までを被覆期間とする(写真1)。
- (3) ネットの被覆は、フラワーネット用支柱などを利用してうね毎に行い、株もとまで確実に覆う(写真1)。
- (4) ネットの固定は、収穫作業を考慮して簡易的に行うこととし、適当な間隔を空けてパッカー等で支柱に固定する(写真1)。
- (5) 草丈が低い特性のある極早生品種や「ふくしまみやび」は本技術の適応性が高いと考えられる。草丈の高い品種に対しては被覆方法の工夫が必要である。

表1 花弁劣化の抑制効果(2008年、ふくしまみやび)

試験区	花弁劣化率(%)		オオマルハナバチ ¹⁾ (頭/a)
	被害花	被害花茎	
4mmネット	0.5 *	7.0 *	34.6
露地	11.0	60.4	

t検定: * =5%水準で有意差あり、n.s.=有意差なし

1)2008年7月29日



写真1 採花期間中のネット被覆方法の例

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成20年度福島県農業総合センター試験成績概要(2008)